

● 桃源郷祖谷の山里
茅葺き民家ステイ

[お問い合わせ]

桃源郷祖谷の山里 受付事務所

住 所 〒778-0202 徳島県三好市東祖谷落合142

マップコード [357 142 896]

T E L 0883-88-2540

MAIL info@tougenkyo-iya.jp

WEB <http://tougenkyo-iya.jp>



<http://tougenkyo-iya.jp>



アレックス・カーと祖谷

今、考えてみると、それはギリギリのタイミングだったと思います。1971年、初めて祖谷に僕がやって来た時、昔の生活はまだ残っていましたが、消えゆく間際だったのです。畑で働く人々は草で編んだ蓑を着て作業をしてましたし、家の中ではイロリが実際に使われていました。

今でも祖谷にもどると、世間からはなれて雲の上の世界に入ったような気持ちになります。下の町と平野が、すっかり現代的になっていて、祖谷だけが美しく残っているためにそのように感じるのかと思っていたのですが、どうやら現代だけのことではないようで、江戸時代の石碑にも「祖谷、我阿州(阿波藩)之桃源也」と書いてあり、昔の人にとっても祖谷は桃源郷のような別世界だったようです。



アレックス・カー

米国メリーランド州生まれ。
1964年初来日。
少年期に体験した日本の美しさと失われゆく現状を国内外に訴え、次代へ残すべく、文化芸術活動の推進、講演、執筆活動など幅広く行い、日本各地に残る美しい風景と文化を守り伝える事業を推進。



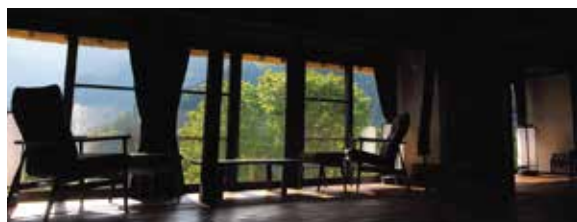
ちいおり 簾庵トラスト

アレックス・カーが代表を務めるNPO法人。
三好市からの委託を受け、落合集落での古民家再生、地域活性化事業の企画、運営を手がける。

「浮生（ふしょう）」

星にいちばん近い夜、
雲の上におきる、朝

祖谷川沿いの入口から集落内を上へ上へとつづら状に続く里道のつきあたり。その標高差は約390mにも及ぶ。落合集落最上部で過ごす浮生でのステイは、あらゆる思考と時の流れを止め、現世から隔絶された桃源郷の世界を想起させる。谷を深く交差するように刻みながら彼方へ続く山々の稜線、静寂の夜には無数に瞬く星たち。そして、幻想的な雲海が眼下の世界を真っ白に覆い尽くした時、この桃源郷の世界はハイライトを迎える。



「悠居（ゆうきょ）」

集落の奥に佇む、
悠か（はるか）な時間を刻む家

集落の脇道に入り森の奥へ進むとひっそりと佇む、隠れ家と呼ぶにふさわしい家が一軒。現し世とは隔絶され、止まっていた時が再び動き出す。主屋と隠居屋の二棟からなり、今まで以上に滞在者が自由に過ごすことができる造り。隠居屋には和モダンなベッドがあり、入口をあがった床はガラスで、芋つぼと呼ばれる貯蔵庫が見え、昔の暮らしぶりが伺える。



「雲外(うんがい)」

雲と山がおりなす
風景画を眺めるように

落合集落の中腹、地域の人からは「お宮さん」
の愛称で親しまれる三所神社のすぐ隣にある
家。二棟並びの茅葺き民家宿。

「雲外(うんがい)」は二棟のうち「主屋」であった
建物で、伝統的な間取りに加え風呂、トイレ、さら
にシャワールーム部分を増築し、古き良き部分は
損ねずにより快適に滞在できる造りになっている。



「蒼天(そうてん)」

眼前には連なる尾根と
蒼い天(そら)

落合集落の中腹、地域の人からは「お宮さん」
の愛称で親しまれる三所神社のすぐ隣にある
家。二棟並びの茅葺き民家宿。

「蒼天(そうてん)」は二棟のうち「隠居屋」であ
った建物で、コの字形にリビングと寝室が分か
れて配置されたコンパクトな造り。リビングや寝
室から出入りが可能なウッドテラスは、山里の
清々しい空気と開放感をもたらす。



「晴耕(せいこう)」

山里のまんなかに過ごす

急斜面の崖地に広がる祖谷の山里、落合集集の中腹。ぐるり取り囲む穏やかな風景と時間。ここに伝統的な屋敷構えと間取りを持つ二棟並びの茅葺き民家宿がある。晴耕は二棟のうちの主屋であった建物で、この地域の伝統的な民家の間取り(中寝間三間取)を持つ。南向きの広い縁側からは、急斜面に広がる集落の全景が眼前に広がる。隣接する雨読は、かつて晴耕と同一の住居のうち、隠居屋であった建物。



「雨読(うどく)」

山里時間を楽しむ休息

主屋と隠居屋、伝統的な二棟並びの晴耕と雨読。雨読は二棟のうち隠居屋であった建物で、内部はアイランドキッチンを備えたダイニングと寝間というコンパクトな間取りだが、山里のゆったりと流れる時間をよりシンプルに楽しむことができる。夕闇が迫る時間、ふと差し出されたカップを手に、微睡みながらソファから身を起こしてティータイム、そして夕食は会話も弾むアイランドキッチンで共同調理。別棟には、家族一緒に入れる広いお風呂も。



「談山(たんざん)」

いつまでも
尽きることのない語らいを

ここ談山は、大化の改新の密談がもたれた奈良の古刹から名づけられました。

家の中央にある階段を登った先には、茅葺きの屋根裏や黒光りする梁を間近に見ることができるロフトがまるで隠し部屋のように待っています。あたたかも故郷のいえに帰ってきたかのような居心地の良さを感じながら、ノスタルジックなステイを楽しめます。



「天一方(てんいっぽう)」

月光が浮き上がらず
幽玄でのびやかな風景

天一方の名は、月への羨望を詠った漢詩からとられました。

落合集落の上部に位置するこの家は遮るものが何もなく、昼の渓谷、夜の月や星々を180度のパノラマで望むことができます。

囲炉裏を大胆にリメイクしたテーブルの周りをコの字型に配したソファは、和と洋の様式を巧みに取り入れたラグジュアリーな雰囲気を加えています。



落合集落散策マップ

